【リデュース】(軽量化・薄肉化)

① 一本当たりの重量変化

2025 年実績は、基準年(2004 年)対比で 1 本当たりの加重平均重量は 1.6%の軽量化が図られた。

1 本当たりの単純平均重量は、基準年（2004 年）の 192.3g に対し、2025 年実績は 175.5g と 8.7%（16.8g/本）の軽量化が図られたが、これにはびん容量構成比の変化が含まれているため、その要素を緩和した加重平均の軽量化率は 1.6%（3.1ｇ/本）の軽量化となった。【表 1 参照】

残りの 7.1%（13.7ｇ/本）はびん容量構成比の変化によるものである。

なお、基準年（2004 年）対比での軽量化による資源節約量は、2006 年～2025 年の 20 年間で、386,368 トン（100ml ドリンク剤びん換算 35 億 9,057 万本）となった。

【表 1】1 本当りの単位重量推移

	2004 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
	H16	R3	R4	R5	R6	R7
生産本数（千本）	7,262,950	5,392,253	5,192,766	5,206,292	4,779,244	4,721,817
生産重量（トン）	1,396,582	930,183	932,266	913,847	843,698	828,572
単純平均重量（ｇ/本）	192.3	172.5	179.5	175.5	176.5	175.5
単純平均軽量化指標	100.0	89.7	93.3	91.3	91.8	91.4
加重平均軽量化率指数	100.0	98.1	97.5	97.6	97.8	98.4
軽量化率(加重平均)	―	▲1.9%	▲2.5%	▲2.4%	▲2.2%	▲1.6%
軽量化による累計資源節約量(トン)	―	307,540	331,445	353,916	372,895	386,368

2．軽量化実績

2025 年に新たに軽量化された品目は、4 品種、7 品目であり、軽量化重量は 571 トンであった。

2006 年から 2025 年までに軽量化された品目は 11 品目 297 品目となった。【表 2 参照】

なお、軽量化実績の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表 2】2025(令和 7)年に軽量化された品目

品 種	のべ 品目数(304品目)
小びんドリンク	小びんドリンク(9 品目)
薬びん	細口(2 品目)、広口(2 品目)
食料びん	コーヒー(17 品目)、ジャム(14 品目)、粉末クリーム(2 品目)、蜂蜜(1 品目)、食用油(8 品目)、食品(10 品目)、のり(1 品目)
調味料びん	辛子(1 品目)、たれ(7 品目)、酢(13 品目)、ソース(2 品目)、新みりん(3 品目)、醤油(4 品目)、つゆ(10 品目)、調味料(18 品目)、ドレッシング(14 品目)、ケチャップ(1 品目)
牛乳びん	牛乳(5 品目)
清酒びん	清酒中小(42 品目)
ビールびん	ビール(16 品目)
ウイスキーびん	ウイスキー(7 品目)
焼酎びん	焼酎(24 品目)
その他洋雑酒びん	薬味酒(1品目)、ワイン(25 品目)、その他(19 品目)
飲料びん	飲料ドリンク(9 品目)、飲料水(2 品目)、炭酸(3 品目)、ジュース(6 品目)、ラムネ(2 品目)、シロップ(2 品目)、乳酸(1 品目)